

女性特有の健康課題とメンタル不調の 相関分析を通じた 伴走支援スキームの有効性検証事業



WITH MIDWIFE

2025年11月



会社概要

社名：株式会社With Midwife

所在地：本社（下記）/東京（下記）/愛知

〒534-0024

大阪府大阪市都島区東野田町4-15-82

QUINTBRIDGE303

〒106-0032

東京都港区六本木6丁目4番1号

ハリウッドビューティプラザ 4F

代表者：岸畑 聖月

創業日：2019年11月1日

資本金：3,000,000円

事業：法人向けEAPサービス

医療者を活用したコンサルティング

医療者向けリスクリング事業

従業員：役員3名、従業員11名、パート3名、業務委託30名程度



株式会社With Midwifeが提供する
「THE CARE」は従業員の仕事とプライベートにしっかり寄り添う
伴走型の従業員支援サービスです。



THE CAREはこんな企業に最適です

- 女性特有の健康課題に対応したい
- 若手の採用を強化したい
- ライフステージに応じた支援を整えたい

導入企業の **7** 割以上が
健康経営優良法人を取得

企業専門の医療専門家が企業とそこで働く人を継続的にサポートします。

01



従業員をサポートするのは、企業視点を持った専属の医療専門家

相談に対応するのは、看護師 / 助産師 / 保健師 3つの国家資格併有者。また人事労務やキャリア支援の知識を独自ライセンスを通じて継続的に習得しています。心身だけでなく、仕事との両立を目的としたライフキャリアをサポートできる専門職として、制度や労務の情報も常にアップデートしています。

02



従業員サポートはアプリでカンタン

ストレスチェックやアンケートは、すべてアプリ内で簡単に実施できます。高リスク者への個別相談に加えて、従業員のウェルネス向上を目的としたコンテンツもアプリ内で提供します。

03



社員のリアルな声から、新たな女性活躍施策へ

社員の声を相談・アンケート・ストレスチェックなどから集約し、課題を可視化。見えてきたニーズに合わせて、最適な施策を実施できます。

企業における従業員の健康課題を見える可視化し、 一人ひとりが安心して働き続けられる環境をつくる

健康課題の可視化



義務化されているストレスチェック等の制度を活用し、特に女性の健康課題（例：月経・不妊・更年期など）を含む多様な体調変化の実態を可視化

支援体制の構築



THE CARE

専門職によるオンライン支援を通じ、個々の課題に応じた行動変容を促進する。

働きやすい環境づくり



企業とともに制度活用を促進し、健康・キャリアの両立を支援することで企業の健康経営・人的資本経営の推進にも寄与。

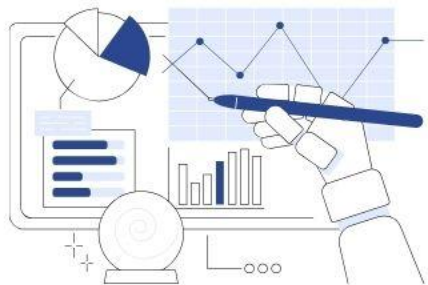


目指す成果

女性がライフイベントとキャリアを両立できるような働きやすい環境を企業とともに整備し、生産性の改善につなげる。

01

心身の健康状態の取得 / 分析



- 全従業員を対象に性別特有の健康課題を含む、心身の健康に関する健康（任意）を配布。
- 両データを統合し、相関分析を実施。

02

個別支援および集団介入の提供



- 健康課題が見られた方や希望者に対し、医療専門家がアプリを通してオンライン支援を実施。
- 個々の課題など状況に応じた個別支援や、e-Learningによるサポートを提供。

03

効果測定とフィードバック



- 健康・メンタル・生産性の変化を指標で分析し、支援の効果を評価。
- 各企業へ結果をフィードバックし、職場環境や制度改善に活かす。

代表団体

株式会社With Midwife



WITH MIDWIFE

提携先

始動メディカルコンサルティング合同会社

ダッタラ株式会社

ヘルステックハブ株式会社

株式会社NASU

ちかメンタルクリニック

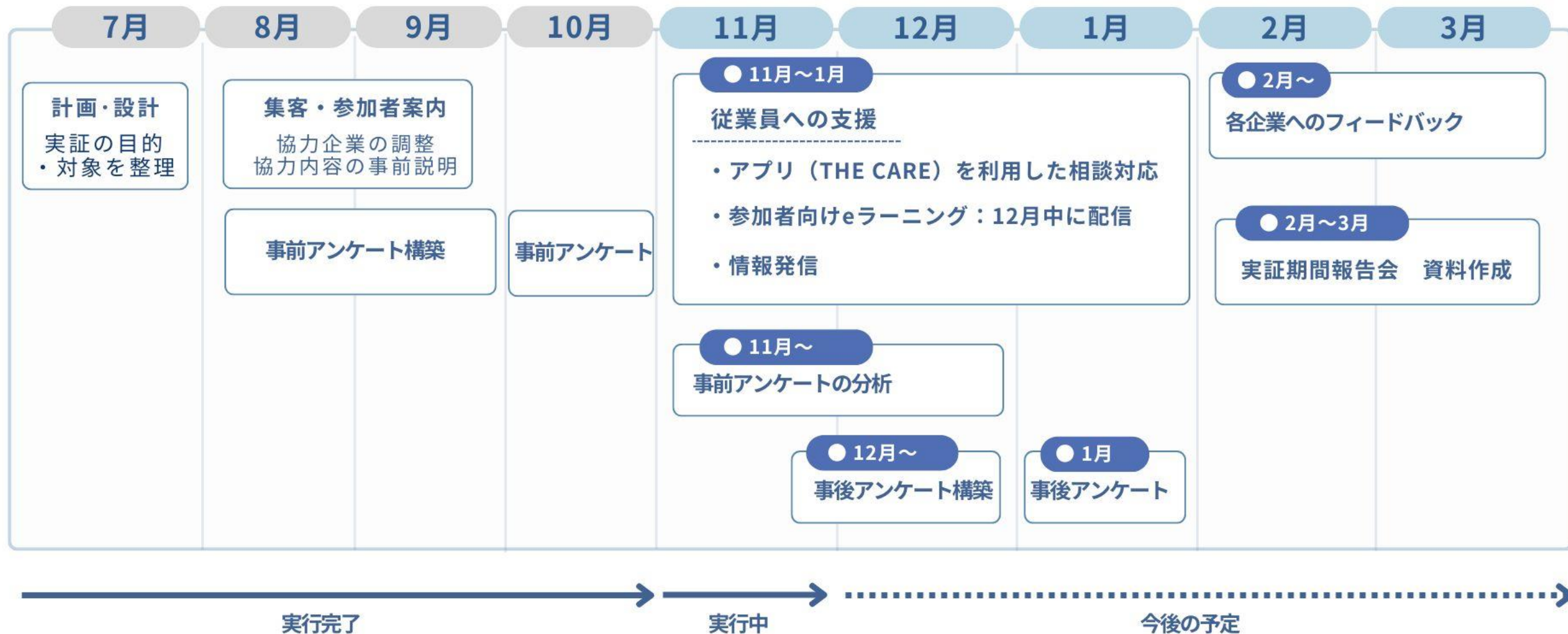
実証先

- 株式会社赤ちゃん本舗
- 株式会社紀陽銀行
- 社会福祉法人愛佳会
- 広田証券株式会社
- 福山市

事業進捗



協力団体のスケジュール調整により、アンケートおよびサービス提供の開始が当初計画より約2週間後ろ倒しとなったが、全体としては概ね予定通りに進行している。



成果：アプリでのアンケート回答方法

▶ アプリを通じて、対象者がスムーズにアンケートへ回答できる環境を整備。

- 初回メールからシームレスにアプリへアクセスでき、ログイン後すぐに回答を開始できる。
- 画面の案内に沿って進むだけで回答が完了するため、操作に迷うことがない。
- スマートフォンでも回答可能で、忙しい従業員でも負担なく参加しやすい仕組みである。

アンケート回答



成果：アンケート内容

▶ 本アンケートは計506名へ実施し、分析に適した対象者が確保できた

● アンケート実施人数



- 女性の回答者はKPIを大きく上回り、女性特有の健康課題を扱う本実証に適した母集団となっている。
- 健康課題、生活習慣、働き方、ストレス要因など、実証評価に必要な項目を網羅。
- 今後の実証を進めるための対象者層が十分に確保され、適切なフィールドが設定できた。

● 実施内容

任意：健康アンケート＋職業性ストレスチェック（57項目）

● 健康課題アンケート

- 基本属性：年代、性別、働き方
- 身体的健康：睡眠、疲労感、慢性疾患、既往症の有無
- 女性特有の健康（女性のみ）：月経、PMS、更年期など
- 男性特有の健康課題（男性のみ）：男性更年期、泌尿・生殖など
- 生活習慣：食事、運動、休養、生活リズム
- 健康行動：セルフケア、相談先

● 職業性ストレスチェック（57項目）概要

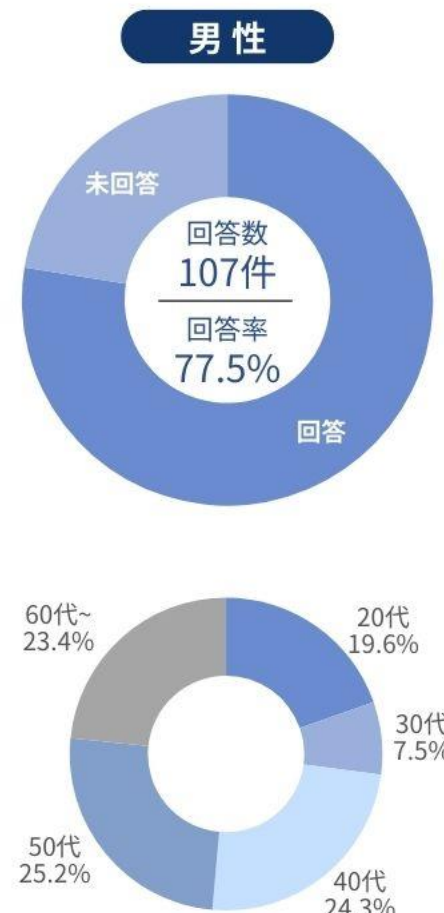
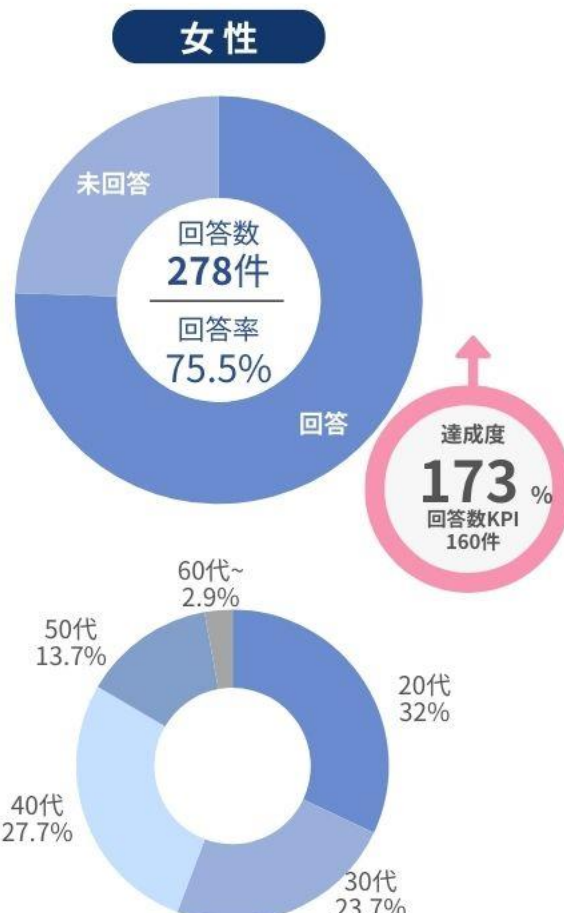
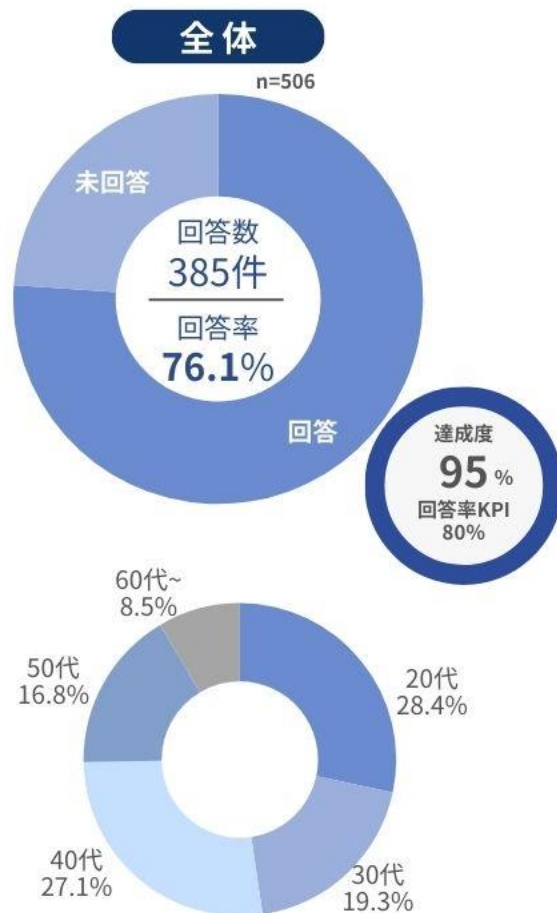
- 仕事のストレス要因：業務量、人間関係
- 心身のストレス反応：疲労感、気分の落ち込み
- 周囲のサポート：上司の支援、同僚の協力
- 働きやすさ：仕事満足度、職場適応感
- 判定指標：ストレス反応の強さ、負荷バランス

成果：アンケートの回答状況とデータ基盤の確保

女性の回収が大幅に伸び、年代も含めた傾向分析に十分な回答が集まった。

回答数

年代内訳



- 回答率は全体で76.1%となり、ストレス要因の分析に必要な回答が十分に確保された。
- 女性は KPI 160件に対し278件（173%）と大きく上回る回収となり、女性特有の健康課題との関連分析に必要なデータが充実している。
- 回答は20～50代の幅広い年代から得られ、ライフステージによる傾向比較も可能である。
- 男性の回答は補助的な参考データとして、全体傾向の把握に活用する。

それぞれのアンケートにて不調があると回答した支援対象者を約140名と想定し、個別に伴走支援を実施する。

01

生産性（WHO-HPQ）の変化



- WHO-HPQスコアの前後比較
- 健康状態（睡眠・疲労・メンタル負荷等）と生産性の関連性
- 介入内容（個別支援・eラーニング等）と生産性の改善傾向の整理

02

行動変容 (受診・制度利用・セルフケア)



- 支援を通じて従業員の行動にどのような変化が生まれたかを確認する。
- 健康相談・受診につながったケース
- 制度利用につながったケース（通院・制度申請・産業医面談など）
- セルフケアの実践状況・健康意識の変化

03

支援満足度 (THE CARE・eラーニング)



- 個別相談・オンライン支援に関する満足度
- eラーニングの理解度・満足度等
- 「相談しやすさ」「働きやすさへの貢献」などの定性的な意見
- 今後の組織改善に向けた施策案の抽出

課題

01 THE CARE の相談利用をさらに高める

利用のハードルが下がる工夫が相談利用に繋がり、成果（行動変容・満足度）につながる重要な要素となる。



02 eラーニング配信を効果的に実施する工夫

実証スケジュール内に質の高い配信を行うには、優先順位づけと運用設計が重要となる。



03 事後アンケートを確保するための工夫

生産性・行動変容・満足度等を評価するには、事後データの回収が不可欠となる。



対応策

- ・初回利用のきっかけとなる相談事例や“相談できるテーマ”を可視化し、利用イメージを促進する。
- ・リマインド支援を行い、適切なタイミングでの利用につなげる。

- ・テーマごとにスムーズに配信設定できる仕組みを構築する。
- ・社内広報とアプリリマインドを組み合わせ、対象者が視聴しやすい導線を整備する

- ・事前アンケートの運営を参考にしつつ、事前告知・アプリ通知・社内広報を組み合わせ、回答しやすい環境を整える。

今後のスケジュール

▶ 実証後半に向けて、支援・分析・報告の各プロセスを計画的に進める。

- 11~1月にかけて、THE CARE を通じた個別伴走支援およびeラーニング配信を実施する。
- 1月下旬には事後アンケートを実施し、介入に関する評価も実施する。
- 回収データを基に、最終報告に向けた指標別の集計・分析を進める。

